



KAMIYAMA Seconds!

2025年6月18日掲載

二番底を待つのか？

このところ、日米株式について「二番底があるのか」とよく聞かれますが、その可能性は低いでしょう。

まず、前回の大きな下げ、つまり一番底は4月のトランプ関税ショックでした。このようなことをトランプ米大統領がもう一度引き起こす可能性は低いです。

なぜかという、これ以上、消費者心理が悪化すると来年の中間選挙に勝てないと判断するとみるからです。トランプ政権が意図する産業空洞化への対応と中間層の浮揚は、来年秋の中間選挙前に結果が出るとは思えません。

ですから、トランプ氏の今後の政策は減税など消費者を喜ばせる方向に変わり、これ以上市場心理を悪化させる原因を作らないようにするでしょう。

もう一つの心配は、イスラエルとイランの紛争激化です。これは、外交的、社会的な大問題と言えますが、世界の先進国経済への影響は今のところ限定的とみています。

中東の紛争が世界に拡大するのは、原油の供給ショックが起こる時です。紛争で一時的に原油価格が上昇しても、産油国全体の供給余力がまだ大きいのでそのうち収まるとみています。

しかし、イランがホルムズ海峡を機雷で封鎖すると、サウジアラビアやアラブ首長国連邦の原油が日本を含むアジアに届きにくくなってしまい、それらの国でさまざまな生産が一部止まるようなショックが起きてしまいます。

今のところ、イランがイスラエルの攻撃に批判的な産油国に迷惑をかける戦術は使わないとみていますが、偶発的に起こる恐れがあるので注意してみてください。

(日興アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》